

◎御講演 「トランプ大統領のアメリカと日本」

前駐米大使・日本外交協会 顧問 藤崎 一郎氏

【オピニオン】新しい米中関係とTPP、RCEP ―日本の立ち位置は―

中央アジア・コーカサス研究所所長、中国研究所会長 田中 哲二氏

【会員のページ】「世相雑感」への会員の方のご投稿をお待ちしています



The Society for Promotion of Japanese Diplomacy

発行:(一社)日本外交協会 URL <http://www.spjd.or.jp>

平成29年 1月19日号

「トランプ大統領のアメリカと日本」

前駐米大使・日本外交協会 顧問

藤崎 一郎 氏

(平成28年12月12日 於日本記者クラブ)



アメリカ大統領選挙では事前の予想を覆して共和党のトランプ候補が勝ちました。これと英国のEU離脱国民投票(ブレグジット)、そしてイタリアの新興政治団体「五つ星運動」が国民投票で憲法改正案を否決に導き首相を辞任に追い込んだことなどを合わせ、世界的なポピュリズムの台頭が議論されています。その面はたしかにあるとは思いますが、ヨーロッパの場合、難民受け入れの是非という特殊な状況に直面していますし、今回の米大統領選挙は、クリントン候補の戦術ミスとFBI(連邦捜査局)の捜査という2つの要因が結果に大きく作用したのではないかと考えています。

勝敗を分けたクリントン氏の戦術ミス

戦術ミスとはミシガンとウィスコンシンとペンシルバニアという3つの激戦州、自動車、鉄鋼などの労働者の州で民主党の基盤の組合の強いところを落とすことでした。クリントン氏はこういう州はどうせ取れるから、と驚いたことにウィスコンシンには一度も行かず、選挙終盤には圧勝を狙ってユタ州、テキサス州、アリゾナ州という共和党の牙城に乗り込んで走り回りました。そうしたら足元を崩されてしまったわけです。トランプ氏は精力的にこれらの州を回りました。クリントン氏が取った選挙人数は232ですが、ミシガン、ウィスコンシン、ペンシルバニア3州の選挙人数は合計で46。これを足すと278となって、270をオーバーする。この3州を取ればよかったです。3州で46取るのに、彼女があと何万票切り崩さなければいけなかったか。そ

ら、その0.04%の人が逆に投票していれば勝っていた。こういう巨大な戦術ミスをしたのが一つ。

FBIが発表した「Eメール」の衝撃

もう一つはFBIです。私はFBIのEメールは決定的だったと思います。選挙の10日前にFBI長官が新しい材料が出てきたのでこれから調べると発表しました。投票日前日に新事実はなかったとあらためて発表しましたが、期日前投票者が全体の3割以上の4千万人に上る時、この影響ははかりしれません。

ただ、もし自分がFBIのジェームズ・コミー長官の立場になったらどうしただろうと考えると、「長官、あなたは議会にもう全て終わったと報告していたが、ワイナー議員のコンピューターから60万通のEメールが出てきました。そのうち5000通は彼の元夫人のフーマ・アベディンというクリントン氏の秘書とクリントン氏のやり取りです。これを今あなたは発表しないで選挙をお待ちになりますか、それとも発表しますか」と部下から報告が上がってきたとします。その瞬間に、おそらく私の頭をよぎるのは、この部下は共和党か、あるいはニューヨーク・タイムズにたれこまないだろうか、ということでしょう。

それを考えたら、危なくて「発表してしまえ」と言うしかないでしょう。あの発表は別に、政治的にどうかというのではなくても、組織の上にといたら当然のようにする判断だったと思います。

ただ戦術ミスとEメールが決定的だったのは事

※ご注意: 会報は会員専用のサービスのため、ご購入いただくには、当協会にご入会くださいますようお願い致します。

ご入会は「入会のご案内」よりお問合せください。